

1. 評価報告概要表

作成日

【評価実施概要】

事業所番号	1070600539
法人名	医療法人社団輝城会
事業所名	グループホーム沼田公園前
所在地	沼田市西倉内町658 (電話) 0278-30-2201

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年11月12日

【情報提供票より】(平成20年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人	常勤換算 7.25人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	器具リース料67円/1日・水道光熱費400円/	
敷金	有 100,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	上記に含む 円

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.33 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼田脳神経外科循環器病院・沼田クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは沼田城址公園に隣接し、入居者は、春は桜、夏は年輪を経た緑陰、秋は紅葉等季節を感じながらの散歩を楽しんでいる。入居者が車椅子を押したり、足の弱い入居者の手を引く等入居者と職員が共に支えあい、入居者一人ひとりの気持ちを大切にされた支援に努めている。また、毎日のラジオ体操による身体機能の維持と設立母体の医療機関の医師や理学療法士、言語聴覚士の指導を受け、適切な介護と入居者の健康管理に最大の注意を払いながら、医療機関との連携のもと、地域との緊密な係りを作りながら、豊かな生活が送れるよう支援に取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な課題は、職員に供覧したが改善についての話し合いは行っていない。日々の介護業務の中で前向きに取り組まれているが、今後管理者は、全職員カンファレンス等で検討する事を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員に報告書のコピーを配布し記入の後、管理者が取りまとめている。自己評価の結果を話し合い、言葉使いや優しさ等について原点に戻りサービスの提供に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者の状況、転倒事故の状況や対策、自己評価や外部評価結果等を報告している。委員から行事開催時のボランティアを紹介して頂いたり、消防訓練に参加した委員からは避難訓練時の履物への意見等を頂き、これら意見を施設運営に活かした取り組みを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に日常生活状況等を報告すると共に、「公園前だより」に「お知らせ」欄を設け入居者個人毎の健康状態等を記載し家族に知らせている。また、面会時等に意見や苦情を言える雰囲気作りに努め、職員の言葉遣いや対応の苦情を「苦情相談処理表」に記録し、毎月末開催されるカンファレンスで話し合い、改善に向けて取り組んでいる。契約時に外部の苦情相談窓口を説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的な城址公園の散歩では近隣の人々との挨拶を心がけ、施設主催の納涼祭に近所の方々を招待している。町内の方は、花や野菜を届けたり、お茶を飲み立ち寄りしてくれる。また、ボランティアの訪問や幼稚園の運動会に招待されたり、園児がお遊戯の披露や話し相手に訪問したり、地域との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で生活することを目標にし、地域との積極的な交流を図ります。」他3項目の理念を掲げ、地域との緊密な係わりと医療機関との連携の下に、家庭的な雰囲気や大切にされた豊かな日常生活を送れるよう支援している。理念は開所時作成されたものであり、見直しを検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室及び玄関に掲示し、管理者と職員は、日々の介護や毎月のカンファレンスや全体ミーティングで確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的な城址公園の散歩では近隣の人達との挨拶を心がけており、近隣の人達が花や野菜を届けたり、お茶のみに立ち寄ってくれる。幼稚園の運動会に招待されたり、園児がお遊戯の披露や話し相手に訪問したり、施設主催の納涼祭には近隣の人達を招待し、地域との交流に努めている。また、傾聴ボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員に報告書を配布し記入してもらい、管理者が取りまとめている。自己評価の結果は話し合わせ、言葉使いや対応等について原点に戻りサービスを提供している。前回の外部評価報告書は、職員に供覧したが、改善についての話し合いは行っていない。	○	外部評価を活かして、職員で話し合いサービスの向上にむけて取り組まれるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則奇数月の最終水曜日に開催し、利用者の状況、転倒事故の状況や対策、行事の内容、自己評価や外部評価結果等を報告している。会議を通じ、委員から行事開催時のボランティアを紹介して頂いたり、消防訓練の避難時の履き物への意見等があり、これらの意見を活かした取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの情報等は、併設の居宅支援事業所の担当者と連携をしながら得ている。事故報告や各種更新書類を持参した際に、ホームの空き情報等の情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、日常生活状況、健康状態等を報告している。また、「公園前だより」に「お知らせ」欄を設け、入居者毎の健康状態、餅つきや納涼祭等の行事、職員紹介等を記載し、面会に来られない家族にも近況を知らせている。金銭管理は立替金処理し、毎月の利用料請求時に領収書を同封し、精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見や苦情を言える雰囲気作りに努めている。職員の言葉使いや対応の苦情には「苦情処理表」に記録し、注意すると共に、カンファレンスで話し合い改善に向け取り組んでいる。また、契約時に外部の苦情相談窓口を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は極力抑え、異動の場合は十分な引き継ぎと入居者とのコミュニケーションを良く取るよう努めダメージを防ぐ配慮をしている。「公園前だより」で、家族への職員の異動を知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護や認知症に関する法人内研修に、夜勤者を除き全職員が参加している。また、県が開催する管理者研修や実践者研修を受講し、研修資料のコピーを全職員に配布し、感想文を提出している。新規採用職員には、先輩職員の指導のもと2週間の研修や併設デイサービスでの研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、グループホーム大会やレベルアップ交換研修へ交代で参加し、他ホームでの現場研修を経験しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家庭を訪問し、家族の状況や本人の経歴・希望等を聞いている。本人や家族が施設を見学すると共に、併設のデイサービスを利用して両施設の合同行事等を通じグループホーム入居者とコミュニケーションを図りながら、徐々に慣れるよう支援している。また、入居後慣れるまで家族に出来るだけ面会に来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	餅つきや繭玉作りをしたり、床掃除やテーブル拭きを職員と一緒にしている。また、散歩の時は、入居者同士で元気な入居者が車椅子利用の入居者を押したり、足の弱い入居者の手を引く等、職員も入居者も共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人や家族からの希望等聞き、また日々の係わりの中で入居者一人ひとりの生活歴を参考に、馴染みの暮らし方を把握している。意思疎通の困難な入居者は、家族からの情報や支援の中で声かけを行いその表情や言動等から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望を聞き、担当職員の意見を取り入れ、医師からの意見を反映しながら、本人がよりよく暮らせる為の介護計画を作成し、家族に確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングと6ヶ月毎のアセスメントに基づき、介護計画評価表や担当職員、医師、家族の要望等を反映し、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、退院後等の状況変化時には、現状に合わせた介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	レクリエーションや各種行事等は、併設のデイサービスと合同で行い、馴染みの関係を築くよう支援している。職員は、理美容や受診の送迎、必要とする日用品を入居者と共に家に取りに行く等柔軟な対応をしている。近隣の方の介護相談にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を聞き、本人や家族が希望するかかりつけ医に職員が同伴し受診している。かかりつけ医の希望のない入居者には家族の了承を得て、協力医をかかりつけ医とし、月1回の往診等適切な医療が受けられるようにしている。受診時には、看護職員が情報を提供し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う「急変時等の対応に関する意向確認書」により家族の意向を踏まえ、医師の判断を仰ぎ看取りを行う方針である。重度化や看取りの方針については、看護師を交えカンファレンスで話し合い共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室のガラス窓にはカーテンをつけており、またトイレ誘導時の言葉かけ等日々の介護の中で、入居者の誇りやプライバシーを損なわないよう指導され、実施している。書類の記録や保管等は、外部者の目の触れぬよう個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表はあるが、昼食後に昼寝をしたり、テレビの前で好きな歌と一緒に歌ったり、散歩をする等一人ひとりのペースを大切に、希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望する献立を取り入れたり、誕生日には箱膳等で雰囲気作りをし、時には希望を聞き出前を取ることもある。入居者の能力に応じてテーブル拭きや下膳を行い、時には、家庭菜園の新鮮野菜を収穫して食卓にのぼらせたり、クリスマス会や納涼祭には家族も参加し食事を共にし、楽しい食事の一時を過ごせるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴を拒否する人には言葉かけで誘導し、または入浴日を1日ずらす等、2日に1回の入浴を心がけている。また、楽しく入浴が出来るよう入浴剤を入れ、時には季節感のあるミカン湯、ゆず湯を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	部屋の掃除、モップかけ、下膳やテーブル拭き等入居者個々に合った役割をお願いし、カラオケ、パソコンゲームや囲碁、塗り絵等楽しみながら行っている。気晴らしとしてはフラワーパークの花見やぶどう狩り、弁当持参のドライブ等支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは沼田城址の公園入口に隣接し、春は桜や若葉、夏は松、櫟、銀杏、イロハモミジ等年輪を経た緑陰、秋は紅葉、落ち葉を踏みしだく等季節毎の散歩を楽しみ、冬は建物南面の日当たりの良いベンチで日光浴、また季節毎のドライブ等出来るかぎり外出の支援を行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や全職員は、鍵を掛けることの弊害は理解しており鍵を掛けないケアを行っている。モニターテレビを設置し玄関の様子を把握し、無断外出時には一緒について行くなどの見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成され、緊急連絡網が整備されている。自主避難訓練の他、消防署の指導を受け年1回は消火訓練、非常通報訓練、夜間を想定した避難訓練を行っている。職員は法人が主催する救急救命講習会に参加し、運営推進会議の委員にも協力を依頼し訓練に参加していただいている。今後地元の消防団の協力が得られるよう働きかける予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時には栄養士の指導を受け献立表を作成し、個人毎の食事摂取量を記録すると共に、毎食後やおやつ時の水分摂取を記録し職員はその情報を共有している。一人ひとりの状態や力に応じて、キザミ、トロミ、低蛋白食等支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に鉢花が飾られ、水槽にメダカが泳いでいる。居間兼食堂は陽光が注ぎ、観葉植物や季節の花が生けられ、隣接した畳敷きの和室には神棚が置かれ、コタツが用意され、家庭的雰囲気醸しだしている。日当たりの良い建物南面にはベンチを配置し日光浴を楽しみ、季節を感じる干し柿が吊るされる等心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたテレビやラジオが置かれ、パソコンや碁盤でゲームや囲碁を楽しんでいる。掃除用具を持参し居室を掃除し、趣味の時間で作成した貼り絵や塗り絵、家族の写真等飾られる等居心地良く過ごせるよう配慮されている。		